

2020 年度
事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2020年度は、コロナ禍により、イベントや募金活動ほぼ全てが中止となり、それに伴い寄付金収入も激減し、協会発足以来最大の運営危機となった。

このような状況の中、補助犬育成事業をなんとか継続させようと、ユーザー、ボランティア、協会役職員が一丸となりクラウドファンディングに挑戦するなど、各方面に支援を訴えた。その結果、当該年度予算の8割程度ではあるものの、昨年と同様の収入を得ることができた。

これまでも、ユーザー、ボランティア、協会は同じ方向性を持ち支えあう良好な関係を築いていたが、協会存続の危機の中、より絆が深まることとなった。

また、協会サポーターをはじめ、運営の危機を知った多くの方々にご寄付をいただき、改めて社会の皆様に支えられ、求められている事業であることを再認識することができた。

育成・認定事業は、緊急事態宣言発令に伴い、予定していた合同訓練が実施できないなどの問題を抱えながらも、当該年度計画の9割を実施することができた。

実際に補助犬を観て触れ合ってもらい啓発活動は制限されたが、オンラインセミナーなど、全国を対象とした啓発を行った。

また、国が推進する共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザイン2020評価会議に委員として参加し、「誰一人取り残さない社会」を構築するための基礎となる「心のバリアフリー」の考え方に基づいた提言を行った。

公益事業実施状況

補助犬育成・貸与・認定事業

1. 補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

次のとおり、補助犬7頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。

1) 当協会が育成・認定した補助犬

盲導犬 1頭

聴導犬 2頭

2) 他団体が育成し当協会が認定した補助犬

介助犬 3頭

聴導犬 1頭

3) 身体障害者補助犬認定審査会開催状況

次のとおり2回開催した。

令和3年3月14日 認定頭数 2頭 (聴導犬2頭)

令和3年3月21日 認定頭数 4頭（介助犬3頭、聴導犬1頭）

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップを行った。

1) フォローアップ

- ・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)
- ・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 6人 延べ 19日
電話・メール 14人 45回
- ・介助犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 5人 延べ 18日
電話・メール 10人 51回
- ・聴導犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 10人 延べ 29日
メール・FAX 28人 42回

2) 補助犬希望者の相談業務

- ・盲導犬希望者の相談 3人 延べ 4回
- ・介助犬希望者の相談 7人 延べ 9回
- ・聴導犬希望者の相談 10人 延べ 15回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

- ・海外の盲導犬協会より交配済みの繁殖犬1頭を導入した。
- ・海外の盲導犬協会より候補犬2頭を導入した。

2) 聴導犬候補犬確保のための他団体からの導入

国内の補助犬育成団体より1頭のパピーを導入した。

3)繁殖件数 1件

4. パピーの育成

将来聴導犬になり得る仔犬の飼育をパピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託した。また、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

- ・ 委託状況
1 頭
- ・ サポート方法
電話、メール、しつけ教室の開催、訪問等
 - 電話・メール相談 6 回
 - しつけ教室の開催 0 回
 - 訪問 0 回

5. 引退犬の支援

14 頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・ 医療室の利用 6 件
- ・ 訪問 4 回
- ・ 電話・メール相談 109 回
- ・ 医療費支援
- ・ 介護用品の貸し出し
- ・

6. 職員の養成

職員に対し、日々の OJT とともに手話教室の開催や、一般社団法人 OTD 普及協会「心のバリアフリー認定講師」取得等により技術、知識の向上を図った。

補助犬啓発関係

1. 「第 8 回もっと知って補助犬キャンペーン」

コロナ禍の為、簡易的に次のイベントを開催し、補助犬の認知度向上に努めた。

- ・ 期 間 令和2年 11 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
- ・ テーマ ～「誰一人取り残さない」社会を目指して～

1) 甲府郵便局 39 カ所に募金箱の設置

- ・ 11 月 30 日 東光寺郵便局にて出発式を実施
協会職員その他、山梨県内の盲導犬ユーザー及び家族が参加

- 2) マミーマート「手作り募金コンテスト」の開催
 - ・マミーマートの社員を対象に募金箱のデザインを募集し、家庭内への設置を推進
- 3) 大塚商会 啓発キャンペーンの実施
 - ・本社内のデジタル・サイネージで定期的に補助犬の啓発動画を配信
 - ・大塚商会特別社員「介助犬ケイ君」の本社への定期的訪問の実施

2. 企業・団体等における取り組み

下記企業で「補助犬受け入れセミナー」を実施した。

- ・大島椿株式会社（令和2年12月8日）

下記企業・団体で「補助犬セミナー(オンライン)」を実施した。

- ・日本ヒルズコルゲート株式会社(令和2年8月20日)
- ・全国盲導犬使用者の会(令和2年11月22日)

下記団体の施設見学を受入れた。

- ・市沢小学校ジュニアボランティア(令和2年11月14日)
- ・日本障害者リハビリテーション協会(令和2年12月10日)

3. 学校教育における取り組み

下記学校において、オリンピック・パラリンピック推進教育及び「心のバリアフリー」普及を目的とした補助犬介在授業を実施した。

- ・大磯町立国府中学校(令和3年2月26日)
- ・江東区立深川第一中学校(令和3年3月4日)

4. 一般市民を対象とする取り組み

下記イベントにおいて補助犬啓発活動を行った。

- ・ASAHI オンラインフェスティバル 2020(令和2年12月18日～26日)
- ・インターペットオンラインセミナー(令和2年10月23日)
- ・インターペット愛知大会 補助犬啓発ブース(令和2年11月21～22日)

5. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

- ・パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント

等で配布した。

- ・ 会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「にっぽけん通信」第 20 号を 5,000 部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

6. SNS の充実・活用

ホームページの他、Facebook では協会の活動を中心に掲載した。また、インスタグラムを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえるよう情報発信の充実に努めた。

7. マスメディア

TV への出演:カナフル TV、NHK、山梨放送

新聞取材:東京新聞、神奈川新聞、山梨日日新聞

その他:ペティモタイムス、イオンペットサイネージ、BUDDY

子供の情操教育活動

東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、東北地方の介助犬ユーザー、ボランティアが下記場所を訪問した。

- ・ 盛岡市立山岸小学校(令和 2 年 9 月 17 日)
- ・ 盛岡市立本宮小学校(令和 2 年 9 月 23 日)

運営上の課題解決に向けた取り組み

経営会議の開催

円滑な組織運営を推進するため経営会議を 6 回開催した。

他団体との連携等

1. 国際盲導犬連盟(IGDF)正会員

2. 内閣官房「ユニバーサルデザイン 2020 評価会議」委員会委員

3. 横浜市との連携

横浜市動物愛護センターを活用した「聴導犬育成プログラム」を「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に提案した。

4. 全国盲導犬使用者の会主催「介助犬・聴導犬を知ろう」オンラインセミナー
(令和2年11月22日)

5. まちづくり学会 新国立競技場 UD 報告会委員

その他

1. 日本ヒルズコルゲート株式会社と社員派遣および協会在所犬のドッグフード提供を受けた。

2. クラウドファンディングの実施

コロナ禍における減収を補う為、クラウドファンディング「5頭の補助犬を育成するプロジェクト」を実施し、712名の方から12,562,000円の寄付収入を得た。

◆ 収益事業実施状況

商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売

ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を制作し、オンラインで販売した。

2. 自動販売機設置

訓練センターに設置した自動販売機の売り上げに対する手数料収入及び募金型自動販売機からの収入を得た。

【参考】

◇ 理事会開催状況

| 開催年月日 | 主な決議事項 |
|------------|---------------------------------------|
| 2020年6月5日 | 2019年度事業報告及び収支決算書の承認について |
| 2020年6月23日 | 代表理事、業務執行理事互選について |
| 2021年3月23日 | 2021年度事業計画書及び収支予算書の承認について 理事推薦について |

◇ 評議員会開催状況

| 開催年月日 | 主な決議事項 |
|------------|--|
| 2020年6月23日 | 2019年度事業報告及び収支決算書承認について 理事、監事選任について |

◇ 職員に関する事項

2020年3月31日現在職員在籍状況(理事を含む) (単位 人)

| 部署 | 職種 | 常勤 | | | 非常勤 | | | 計 | | |
|----------------|----------|----|---|---|-----|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 管理部門 | 総務・経理 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 補助犬育成・ 訓練部門 | 指導員 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 訓練士 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | ケネル・研修生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 獣医師・トリマー | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| 企画推進部門 | 企画・事業推進 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 普及啓発部門 | 広報・啓発 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | | 3 | 3 | 6 | 2 | 1 | 3 | 5 | 4 | 9 |

注) 業務委託、派遣社員含む

◇ 施設の状況

1) 所在地

横浜市旭区矢指町 1954 番地 1~2

2) 敷地面積 (単位 m²)

| | |
|----------|---------|
| 訓練センター | 955.64 |
| 認定試験センター | 498.50 |
| 計 | 1454.14 |

3) 建物

(単位 m²)

| 区分 | 構造 | 延床面積 | 主な施設 |
|--------|--------|--------|--|
| 訓練センター | 木造2階建て | 497.70 | 事務室、ミーティングルーム、ケネル、ブリーディングルーム、グルーミングルーム。共同訓練用居室(4 |

| | | | |
|----------|--------|--------|------------------------|
| | | | 室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム |
| 認定試験センター | 木造平屋建て | 188.79 | 犬用医療室、グルーミングルーム、多目的ルーム |